



那覇市のファミサポを考える 地域円卓会議

那覇市社協、ファミサポ受託して 20 年。
あらためて考えるこれからのファミサポ事業

実施報告書

日 時： 2023 年 2 月 28 日（火）14:00-16:40（受付開始 13:30～）
場 所： 那覇市総合福祉センター 2 階 大会議室
主 催： 社会福祉法人那覇市社会福祉協議会
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】那覇市のファミサポを考える地域円卓会議



■日 時：2023年2月28日（火）14:00-16:40
■場 所：那覇市総合福祉センター 2階 大会議室
■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：19名（NPO、教育機関等）

■主 催：社会福祉法人那覇市社会福祉協議会
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 高野 大秋（社会福祉法人那覇市社会福祉協議会 福祉施設課 課長）

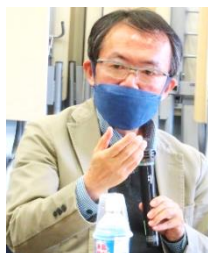
那覇市社協、ファミサポ受託して20年。
あらためて考えるこれからのファミサポ事業。

当那覇市にファミリーサポートセンターが生まれて20年を迎えようとしています。働くお母さんのサポートという視点から始まり、現在は保育だけでなく、子育て支援における重要な社会資源になっています。今回の円卓会議では、これまでも課題であった担い手不足だけでなく、より専門性が求められる支援の依頼や様々な生活課題を抱える世帯支援等、ファミサポの現在地とこれからの求められる役割・機能について考えます。

センターメンバー



高野 大秋
社会福祉法人
那覇市社会福祉協議会
福祉施設課 課長



島村 聡
沖縄大学人文学部
福祉文化学科
教授



與座 初美
NPO 法人こども家庭
リソースセンター沖縄
代表



糸数 未希
保育すけっと in ナハ
相談役



金城 君枝
那覇市こどもみらい部
こどもみらい課
主幹

那覇市のファミサポを考える

地域円卓会議

2023.2.28^(火)

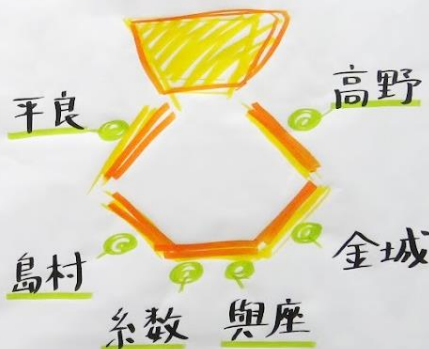
14:00~16:40

④那覇市総合福祉センター

テーマ

那覇市社協、ファミサポ受託して20年

あらためて考える 今後の
ファミサポ事業



主催 社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会

協力 公益財団法人 みらいファンド沖縄

NPO法人 まちなか研究所わくわく

論点提供



高野大秋^氏

那覇市社会福祉協議会

R3:265名

会員 (協力会員 (担い手) 50名)
サポートする 依頼会員 (入っている)
サポートする 両方会員

H18 ~ のべ7200件

H26 ~ 1万件 (10年)

H30 ~ 立ちあげにかかわっていない
メンバーへ代わり

R2 ~ 5400件 (コロナの影響)

県ファミサポ連絡協議会

行政 → 直営 (行政) になっている

たちあげの思い 熱量

福祉サービスのように 市民から広く
相談うけている状況

ファミサポでどこまでやるべきか

保健士、こどもは赤十字事業など
からつながることも多い

複雑な相談 個人情報

お母さんのかかえている問題の情報
とどう共有していいか

習いごと 保育園おむかえ
送迎 (おむかえ) 預り (自宅児童館へ)

エビパソの使用)
発達障がい
多動

などへの対応

出張登録 (2022) → 依頼会員より
協力会員よりない

集団あすか) — センは...から学ぶ
OJTのような。
やるキカイが今な...
塾など

病児・緊急時対応

コロナで

本当に必要
な人に届いて
いない

あずかる
スペースつくれば
もっとニーズは出る

子ども食堂
などの場

育児支援

母親支援含む

③

1クール・3ヶ月くらい

昔、育児支援 → 不登校支援

見たり
消えたり

障がい福祉
ヘルパー

伴走している
家庭に入れる

個別支援・介入できる人が必要

CSW

より...のできる
社会資源 (ボラベースだけでない)
子育てヘルパーなど
地域福祉課
3Dバイザー
CSW

金城君枝さん

那覇市子どもみらい課

子育て世代包括支援センターら・ら・らステーション

5年目 にんしん〜子育て期

子育ての相談・情報提供・入園にかんすること

100項目くらいある

特別な配慮が必要な児童の相談
(発達支援保育) 早期発見

生活不安に関すること

コロナで増 PS CSW) など

LINEの相談件数増

親子健康手帳くばるときに案内

3名で対応

20~30~40代
子育てしんどい、あずけたい。
どうニーズも

たいき児童

④

H27 ~ 保育園まで来た
数百

H4.4 24名までへった

保育士の
確保

とらあ
がきでる

一時あずかり
ストップして
まわす。

一時あずかり
の利用したくても
できない現状
月1回利用くらい

H30~19

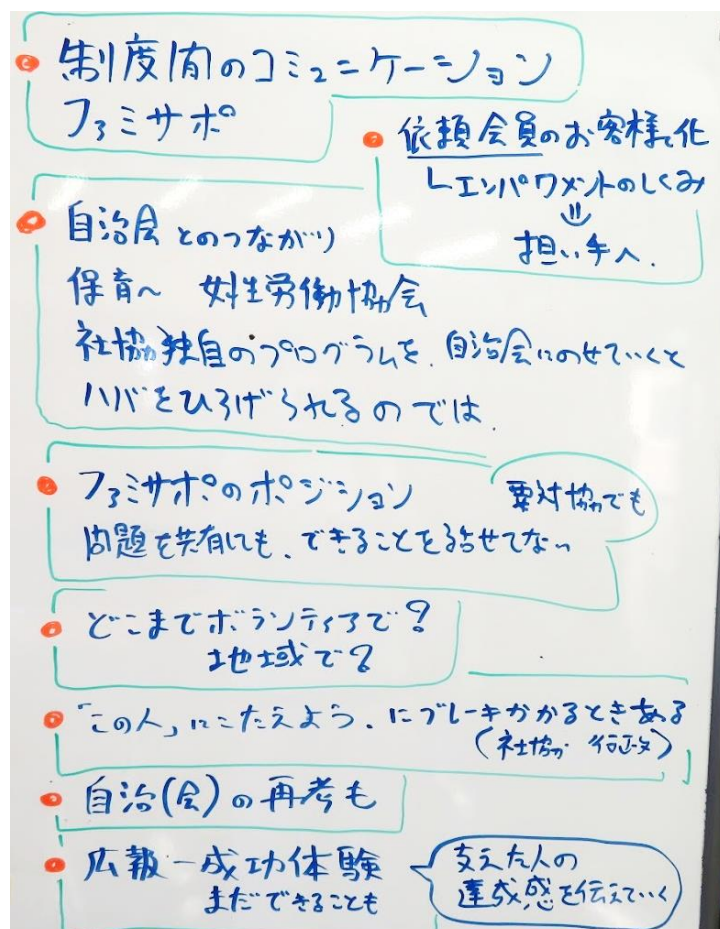
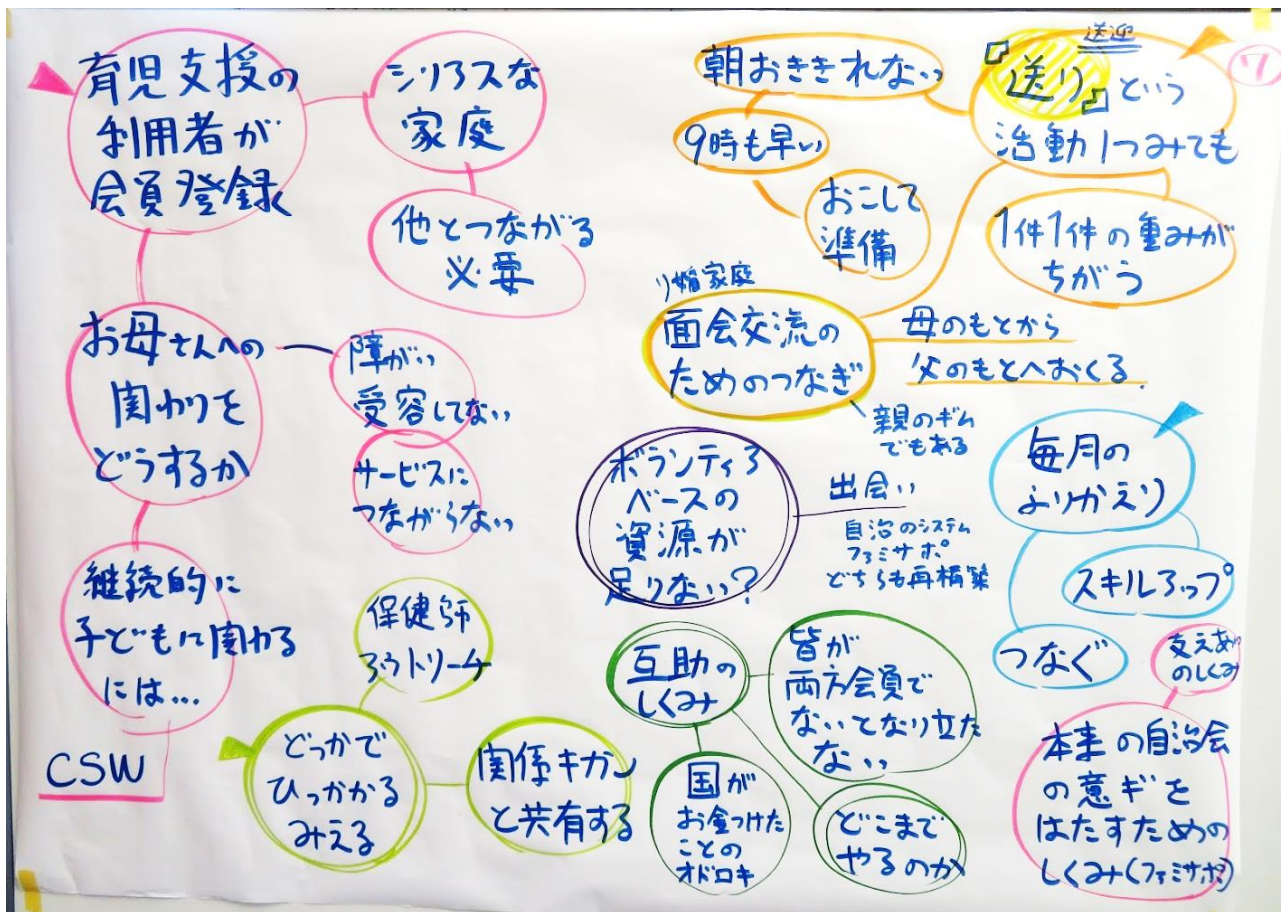
18

R4~14

AM 7~18 延長
7:30 ~ ~19:30

ファミポ — すきまをうめいる。

(土・日も
夜間も
宿泊も)



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 数多くある制度の中で、ファミサポがどこのポジションにいるのか、制度間でお互いのポジションを自覚しながらコミュニケーションをとり、切れ目のない支援につなげることが大切
- 2) 「今ここに存在する困り事を抱えた人」に寄り添い、その人のニーズにあった解決策を開発していく力はボランティアベースの長所。しかし同時に、自治会やサークル等、新しいリソースを取り込んだ仕組みを再構築し、ボランティアの過重負担のかかりにくい制度設計を行うことが大切
- 3) 協力会員の達成感や成功体験、困っている現状等を、依頼会員をはじめ多くの方に広く伝え知ってもらうこと。さらに、依頼会員がエンパワメントされたことで、協力会員にもなりうるという議論を積み上げ、「お互いがセーフティネット」になる社会作りをファミサポがリードできることを期待する協力会員の達成感や成功体験、困っている現状等を、依頼会員をはじめ多くの方に広く伝え知ってもらう

■参加者によるサブセッション

那覇市社協、ファミサポ受託して 20 年 あらためて考えるこれからのファミサポ事業。

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 気持ちで動く人が少なくなった
- ・ 有償ボラである意味がある→気がねなく依頼できる(←信頼できる)→無償は昔ならできた
- ・ 養成講座では幅広い年齢層(読谷)→地元でやる(3町村ではなく)→地域の子は地域で育てる気運がある。→最初は広場であずかる(拠点型)→安心したら自宅であずかるステップを踏んでいる
- ・ 皆けいかい心が強くなっている
- ・ 行政区毎に子育て世代を分析して必要な地域へアプローチしていく
- ・ 思いを可視化する→ファミサポをすることでの付加価値(サポート料とは別)
- ・ 稲嶺さんがモデルとなり背中を見せ、社会の役に立つというほこりを伝える
- ・ 行きたい→自分にもメリットがある。いきいき働く姿
- ・ 泣いている子が母が来たら笑顔になる→母には勝てないとはげます
- ・ 支えられた経験が必要と感じた
- ・ Fa が見てくれていたが、女性が活躍できる仕組みが必要と感じた

②

- ・ 5 人目出産なので上の 4 人の子あずかってほしい→母子会を案内して一緒にサポート
- ・ 登校支援→朝起こすところから支援している。保健師
- ・ 支払いのむずかしい方への対応→ていーだチケット、一人親等チケット
- ・ 生活支援

③

- ・ ナハファミサポ 地域にどう広げる
- ・ 自治会にファミサポ機能
- ・ 協力会員、民生員がファミサポ知らない
- ・ 地域の人たち世代でちがう
- ・ 子育てに関係ない世代
- ・ 民生員不足
- ・ ニーズを知ることがむずかしい
- ・ 相談にはのれる
- ・ 自分たちの問題として地域を知る
- ・ 守秘義務
- ・ 会社の人たちを地域に戻す
- ・ 自治会 2 割 担い手いない
- ・ お客さまではない
- ・ 公助から互助
- ・ アドバイザー、コーディネーター人件費
- ・ 異次元の子育て政策

④

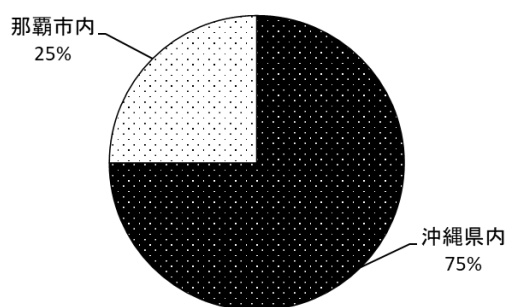
- ・ 担い手不足
- ・ 地域の高齢者に PR
- ・ 責任
- ・ もとめられることが大きくなっている
- ・ 継続利用サポート
- ・ 地域とのつながり
- ・ 厳しい社会でお願いできない状況
- ・ ゆとりある人少ない?

那覇市のファミサポを考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

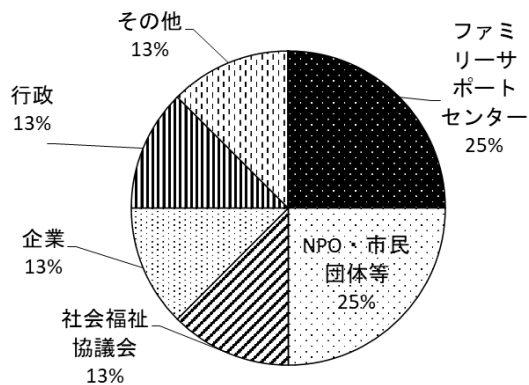
◆概要

- ・日時：2023年2月28日（火）14:00-16:40
- ・場所：那覇市総合福祉センター 2階 大会議室
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：19名※内3名取材のためのメディア関係者
（アンケート回収8名、回収42%）

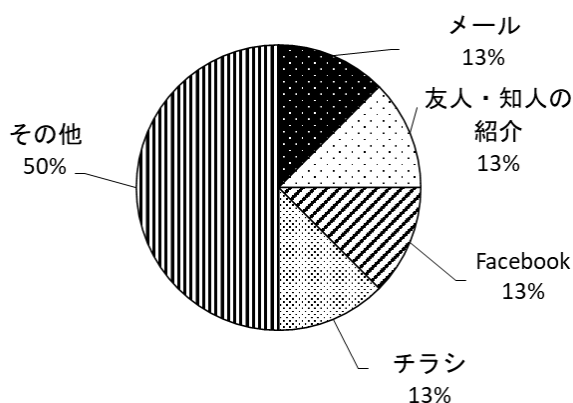
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.3（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
3名	4名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 同じ様な問題がありますが、CSW や PS とつながるなど、取り組んでいきたいと思いました。
- ・ それぞれの考えと経験、知識を得られ学びとなりました。
- ・ 子育てをしているが、ファミサポの活動を知らずにいたので、参加できてよかった。活動が地域でひろがるように、このような会議をもっとやっていただきたい。

（4. おおむね満足）

- ・ ファミサポの意義を確認したこと。
- ・ それぞれの場所での課題を知ることができ、共有できた。
- ・ ファミサポの意義を確認したこと事業の現状を知ることが未来への必要性和意義も話しえたこと。
- ・ 担い手不足とボランティアの域が課題という意見が多く、改めて制度の仕組みの見直しが必要だと感じた。

（3. 普通）

- ・ それぞれの活動の報告や事例や問題点は多い事がわかりみなさんのご苦勞をしれたが、具体的な解決には至らない

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 提供会員を増やすために、自治会などにアナウンスし、サポート場所など探していけば、よりニーズに答えられる。
- ・ 提供会員を増やすために、自治会などにアナウンスし、サポート場所など探していけば、よりニーズに答えられる。
- ・ ファミサポが伝わっていることが多いことにおどろきました。相互扶助。
- ・ 新しい社会資源づくり。出会いの場、就労支援Bでの活用。なるほどと思いました。
- ・ 気持ちから入ったが現在はそうではない。ファミサポ事業は互助のしくみである。同感。ささえあいのしくみをもっと広げて子育ての支援が出来ればよいと思う。
- ・ 拠点型でのサポーターさん体験が面白いと感じた。依頼会員の力を付ける目標も必要だと感じた。
- ・ 担い手確保には出会いの場所づくりが必要だと言う考えを具体的にすすめてアピールし、協力会員の増し、会員の負担を減らしていければ良いと思えた

。

(写真) 会場の様子



★ 気持で動く人が少なくなった。
★ 有償ボランティアの意味がある。
→ 気がねなく依頼できる。
→ 無償は昔ながらの文化。信頼できる。
★ 英米講座では幅広い年齢層。読谷。
→ 地元でやる。(30代以下は少なくて)
→ 地域の中核地域で育つ気運がある。
→ 最初は現場であるから → 安心したから
自宅であるから ステップを踏める。5。
→ 拠点型
★ 1つ1つ強くなる。711。
★ 行政区毎に子育て世代を分析して
必要地域へアプローチしていく

★ 心と可視化する → 73.5%
とあることでの不可価値 (サポートは別々)
★ 縮減したモデルとやり方を示す。
社会の役に立つというほりて伝える
てきたい。 → 自分にもメリットがある。
いきなり価値を
★ 泣いている子供 母が来たら笑顔になる
→ 母には勝てないとはげえる。
★ 支えられた経験が必要を感じた。
経
FA が見てくれたから、世の中が活躍
できる仕組みが必要と感じた。

た、ファシリト。地域にどう
おける
自治会にファシリト機能
協力会員 民生員がファシリト
知らない

地域の人たち世代でちから
子育てに関係ない世代

民生員不足
ニーズを知ることがむずかしい
相談にはのれる。自治会との問題
守秘義務 地域を知る
会社の人たちと地域に
関係ない
自治会 2割 担い手いらない
お客でいい
公助から互助 地域でつながり
異次元の子育て政策

- ・ 5人目出産 なので上の4人の子
あずかしてほしい
↳ 母子会を案内して一緒にサポート
- ・ 登校支援
↳ 朝起きすところから支援している
保母師
- ・ 支払のむずかしい方への対応
↳ 一回だけ
一人親等
生活支援

・担い手不足

・地域の高齢者にPR

・継続利用のサポート

・地域とのつながり

・厳しい社会で

お預けできない状況

・ゆとりある人少ない？

・責任

・求められることが大きく
なっている。